

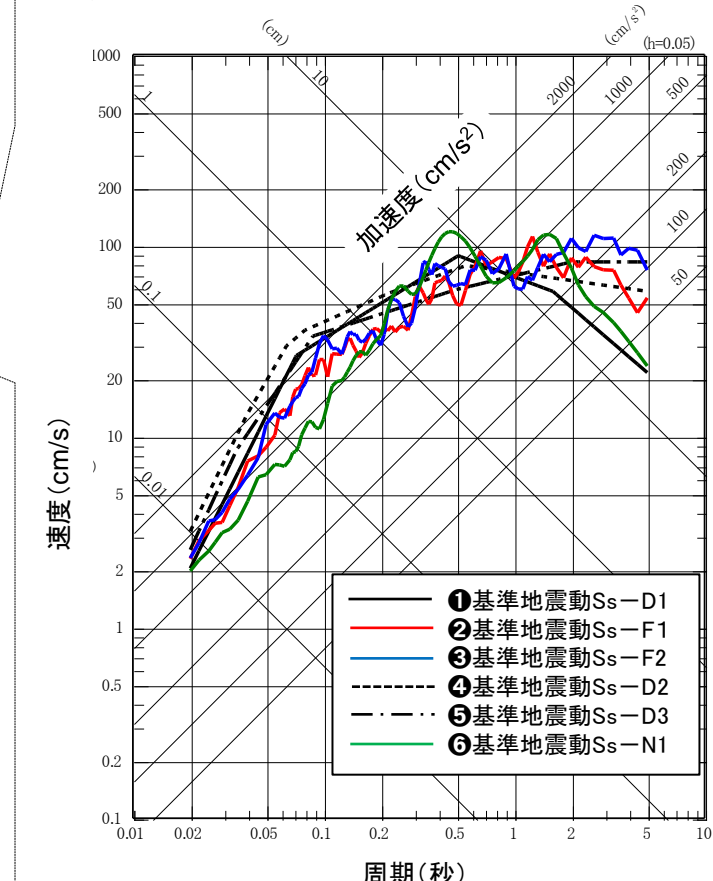
女川原子力発電所2号機 新規制基準適合性審査における基準地震動の策定結果について

- ❑ 女川原子力発電所2号機の耐震設計の基準となる基準地震動については、東北地方太平洋沖地震等での知見を踏まえ、「**Ss-1(640ガル)**」および「**Ss-2(1,000ガル)**」を設定しております。
- ❑ このたび、これまでの「震源を特定して策定する地震動(「プレート間地震」「海洋プレート内地震」「内陸地殻内地震)」および「震源を特定せず策定する地震動」による地震タイプごとの追加評価結果を踏まえ、基準地震動を再評価した結果、申請時に設定した基準地震動Ss-2(1,000ガル)の評価を見直すとともに、新たに4つの地震動を追加しました。この結果、6つの地震動を基準地震動として設定しました。なお、最大加速度は、Ss-D2の1,000ガルです。
- ❑ 当社といたしましては、今後、本日の審査会合のコメントについて再検討を行い、それらを踏まえたうえで、設備面における詳細な影響評価を進めてまいります。

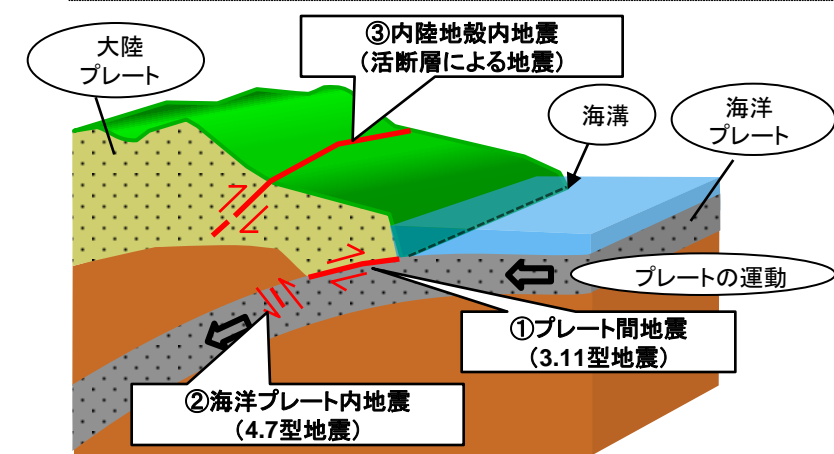
【地震動の評価】 注:表中の加速度は、すべて水平方向の加速度

	適合性審査申請時の評価		追加検討の状況(審査中)	
	地震タイプごとの評価	新たな基準地震動		
震源を特定して策定する地震動	①プレート間地震	2011年東北地方太平洋沖型地震(3.11型地震、M9)を考慮 基準地震動Ss-1 640ガル	—	【名称変更】 ①基準地震動Ss-D1 640ガル
	②海洋プレート内地震	2011年4月7日 宮城県沖型地震(4.7型地震、M7.5)を考慮 基準地震動Ss-2 1,000ガル	左記地震について、不確かさ(応力降下量 ^{※1} の割増し、強震動生成域 ^{※2} 位置を近接)を厳しい条件で考慮し、地震動を評価 717ガル (3/4審査会合)	【追加】 ②基準地震動Ss-F1 717ガル
			左記地震について、不確かさ(強震動生成域を保守的に集約)を考慮した地震動を評価 722ガル (8/19審査会合)	【追加】 ③基準地震動Ss-F2 722ガル
③内陸地殻内地震	F-6断層~F-9断層(M7.1)による地震を考慮	左記地震および仙台湾の断層群による地震を考慮した地震動を評価 ④Ss-D2および⑤Ss-D3を下回る	—	
震源を特定せず策定する地震動	従来 ^の 知見(450ガル)	留萌地震を考慮 620ガル (11/4審査会合)	【追加】 ⑥基準地震動Ss-N1 620ガル	

[地震動応答スペクトル※(水平方向)]



※ 応答スペクトル: 地震動が構造物に対してどの程度の大きさの揺れ(応答)を生じさせるかを描いたもの



[参考] 地震の発生様式イメージ

※1 応力降下量: 地震時の断層面のずれにより、解放されるエネルギーの量
 ※2 強震動生成域(SMGA): プレート境界や断層面において、特に強く固着している領域